

ビジョン2024の実現に向け、今年の実践を考える

本年度の学校CIO研修会は、「学校教育情報化ビジョン2024」の策定を受け、「新たな学び」の実現に向けた各校での取り組みの方向性を探るためのものとなりました。

事前のアンケートではビジョン2024に掲げられた各項目について、自校でどの程度実現されているかの自己評価を行いその分析をもとに、今後の取り組みについて議論を行いました。

講師には信州大学名誉教授 東原義訓先生をお迎えして、ご指導をいただきました。



①教育長は、挨拶で「ビジョン2024の具現化に向けて各学校において校長先生を先頭に積極的に取り組んでいただきたい」と話されました。



②授業開始前、富県小学校の高橋校長先生より学校CIO研修会の実施に向けての校内の取り組みについて紹介していただきました。



③講師の東原先生よりこれから参観する授業について、「参観の視点」を説明していただきました。



④事前アンケートについて自校の評価を表にまとめ伊那市全体の様子を捉えました。東原先生より表を分析する上での視点を解説していただき、各校でまず何から取り組むべきなのかのヒントをいただきました。



⑤自校の実態を紹介しながらビジョンの具現化に向けてどのように取り組んでいったら良いのかについて白熱したグループ議論が行われました。



⑥講師より「校務のDX」についての国の動向と全国状況について説明がありました。なかなか得られない情報について細かくお話いただけ非常に貴重な機会になったとの感想が聞かれました。

信州大学名誉教授 東原義訓 先生のご指導のもとに推進センターで編集させていただきました。

学校CIO研修会についての感想

・富県小の先生方がICTを活用した授業を行おうと前向きに取り組まれている姿に感動しました。これまでの手法から更新していくことの大変さはあるが、少しずつ積み上げていくことが子どもたちの成長につながると思いました。

・東原先生のお話からは、文科省の方針に則りながらも、課題の設定によって授業の成否が決まることを教えていただくことができました。また、校務DX化の課題について、学校として認識が甘かったことを教えていただき、校内で共有したいと思いました。ありがとうございました。

・経験豊富な先生方が、授業づくりをアップデートするため前向きに取り組まれている様子を見せていただきました。そうした会場校の様子を自校の先生方へ伝えたいと思います。

・一人一台端末を活用することは、動画を繰り返し見られる良さや、級友の様々な考えを効率的に共有できる良さ、それを対話活動の材料に使える良さを改めて感じました。校内でも全ての先生がそうした認識を持てるよう、ICTを活用している授業を実際に見る機会を設けることの大切さを感じました。

クラウドを活用した対話的な学びを行う際には、できるだけ学び自体を子どもに委ねられるように課題の設定や発問の工夫が必要になること、担任は困っている子どもに寄り添うなどの対応が必要であることを確認できました。そのため、教師の力量を高めることが重要で、授業を見合って学ぶこと、研修への参加を呼びかけることなど、大切になってくると感じました。



クラウドを活用した共有をどのように深い学びに繋げていくかが本校で取り組もうとしているところです。共有したところから、子どもたちの主体的、対話的な学びが始まっていくためには、本時のテーマの握え方、子どもに任せる、教師の役割の3点が大事であると教えていただきました。昨年度、算数科の授業の主事の指導でも、学習問題、学習課題の捉え方について指導いただいたが、今日の「テーマで対話の中身が変わる」ということに繋がり納得がいった。職員と共有し授業改善に活かしていきたい。

改めて、東原先生が示してくださった授業づくりの観点(指導案展開3の指示)は役に立つと思います。

また、共同的な学びがある授業を作るにあたっての重要ポイント3点

- ①スクールタクトに書かせるテーマが重要
 - ②子どもたちに見つけさせるのが教師の出
 - ③担任の仕事は授業全体のデザインと困っている子どもへのアプローチ
- という視点もいただきました。これは早速本日の職員会議で先生たちと共有しました。校長として、もっともっと先生たちの授業にアプローチをしてもいいのかなとも思っています。